

(再評価)

と かつ こう ない こう ち く
十勝港 内港地区国際物流ターミナル整備事業

再評価原案準備書説明資料

令和4年度
北海道開発局

目 次

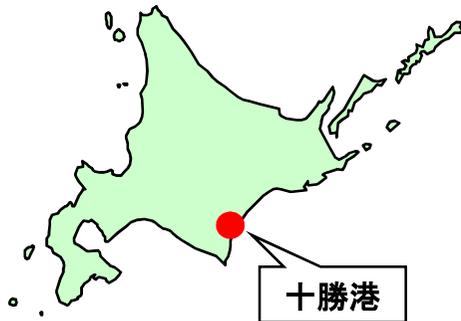
1. 事業の概要	3
2. 事業の必要性等	5
3. 事業進捗の見込み	13
4. 地方公共団体等の意見	14
5. 対応方針(案)	15

1. 事業の概要

(1) 事業の目的

- 十勝港は、北海道南東部の太平洋に面し、広尾町が管理する重要港湾。
- 本事業の目的は、大型の穀物運搬船に対応した大水深岸壁の整備による輸送効率化及び防波堤の整備による船舶の安全な避泊水域の確保。

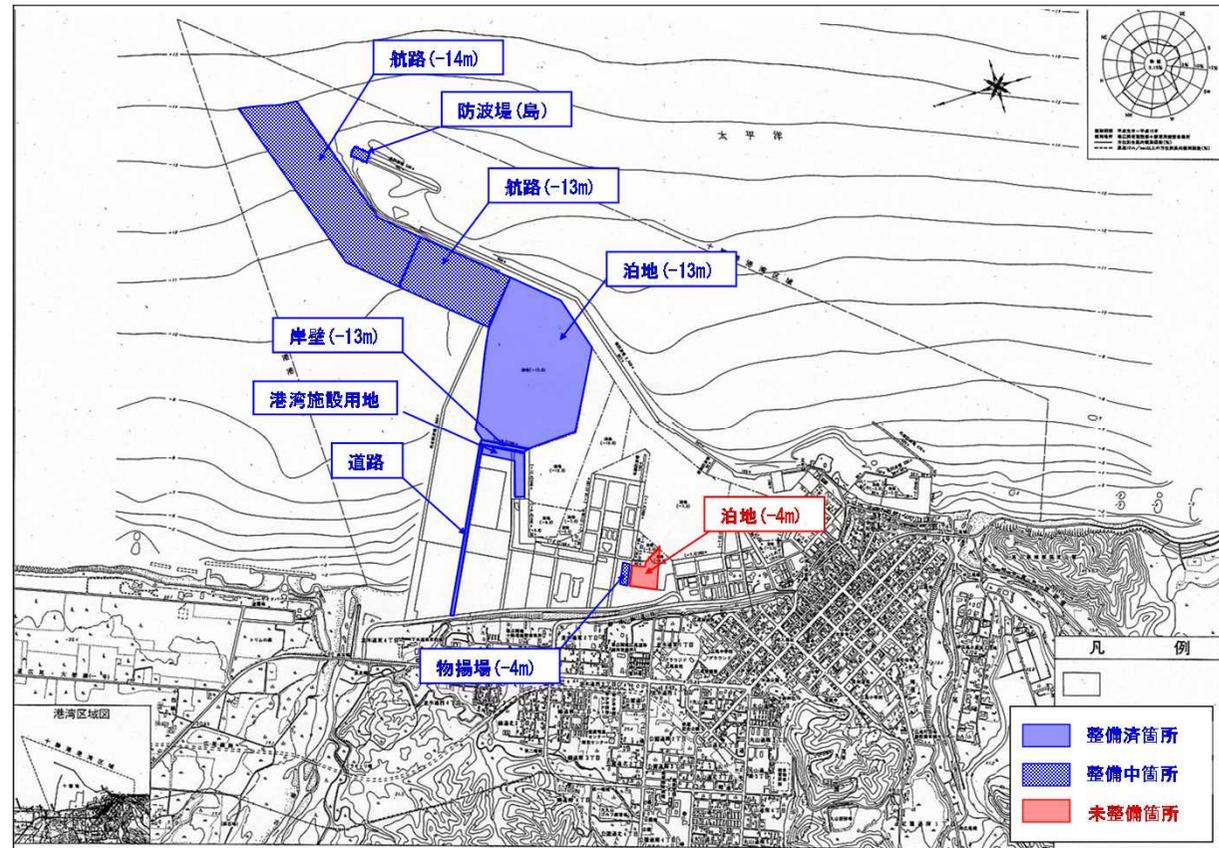
位置図・航空写真



十勝港 全景

(R1撮影)

事業の概要図



1. 事業の概要

(2) 計画の概要

事業主体	施設名	規模	整備期間
国 本港 地区	航路(-13m)	174,000m ²	H 5~R11
	航路(-14m)	355,300m ²	H 5~R13
	防波堤(島)	30m	H 5~R13
	岸壁(-13m)	260m	H 5~H16
	港湾施設用地	17,700m ²	H 5~H17
	泊地(-13m)	473,200m ²	H 7~H11
	物揚場(-4m)	120m	H27~R 8
補助	泊地 (-4m)	18,000m ²	R 8
	道路(第4埠頭)	938m	H20~H22

○総事業費 199億円

○残事業費 41億円

○整備予定期間 平成5年度～令和13年度

○整備進捗率 79%

(3) 経緯

1993(平成 5)年度	事業採択、現地着工
2002(平成14)年度	再評価の実施
2004(平成16)年度	岸壁(-13m)(暫定供用)
2007(平成19)年度	再評価の実施
2011(平成23)年度	再評価の実施
2014(平成26)年度	再評価の実施
2017(平成29)年度	再評価の実施
2022(令和 4)年度	再評価の実施
2031(令和13)年度	事業完了予定

(4) 主な便益

- ・陸上輸送コストの削減
- ・海上輸送コストの削減
- ・回避移動コストの削減
- ・海難の減少
- ・残存価値

* 便益の算出にあたっては、「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(平成29年3月)」による

2. 事業の必要性等

(1) 事業を巡る社会情勢等の変化

【対象港湾周辺の動向】

平成27年6月
「アジアの宝 悠久の自然美への道
ひがし北・海・道」
広域観光周遊ルート認定



出典：北海道運輸局HP

令和2年7月
「道の駅 ガーデンスパ
十勝川温泉」開業



令和3年10月
北海道エアポート始動
(とちかち帯広空港)



写真：帯広市HP

平成26年5月
宇宙交流センター開設



平成14年8月
「道の駅 コスモール大樹」開業



平成23年4月
飼料コンビナート開業



写真：広尾町HP

平成27年3月
帯広・広尾自動車道
更別IC～忠類大樹IC
(16.7km)開通



令和4年3月
帯広・広尾自動車道
豊似～広尾間
(12.3km)事業化決定

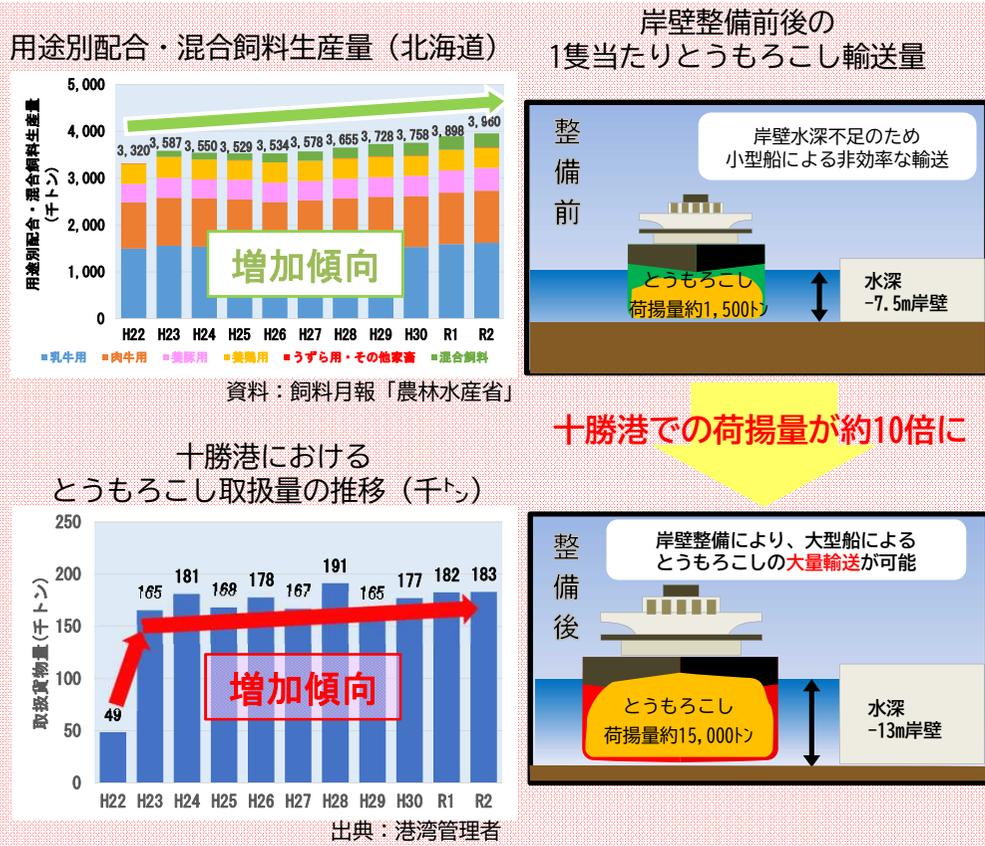
平成23年7月
「十勝シーニック
バイウェイ南十勝
夢街道」指定ル
ートに認定




2. 事業の必要性等

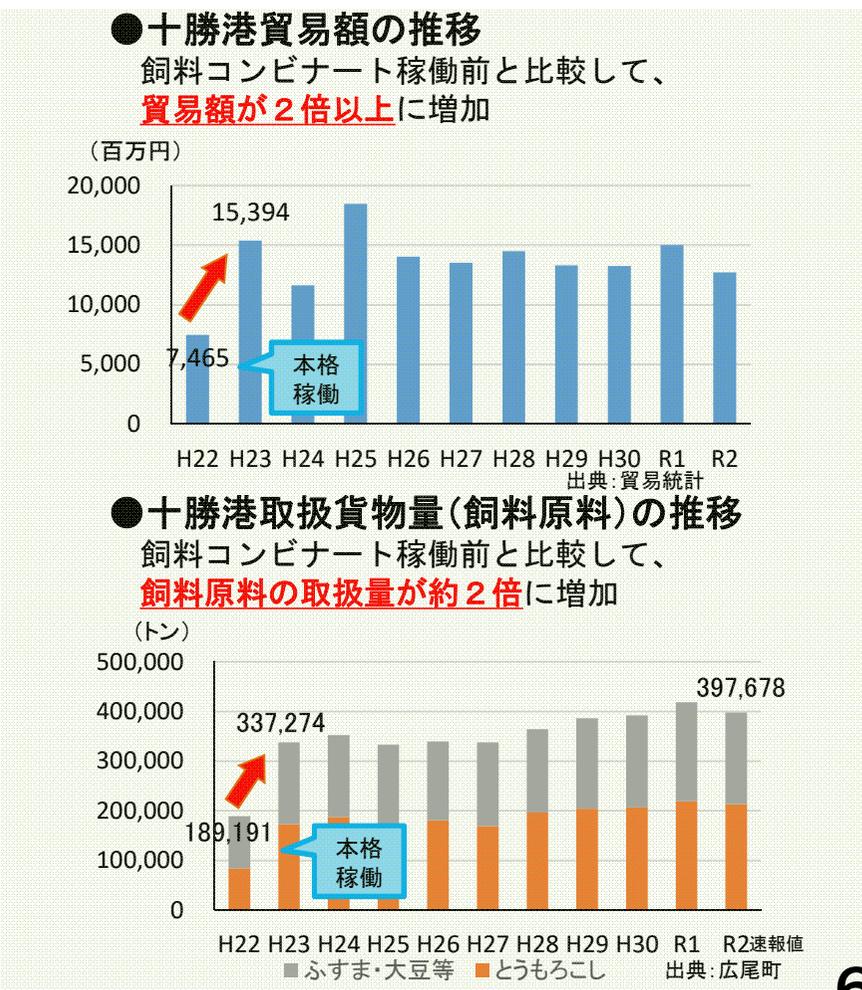
(2) 事業の整備効果(基幹産業の支援(畜産業))

- 十勝港における大水深岸壁の整備により、大型の穀物運搬船の利用が可能となり、輸送コストが削減され、地域の産業競争力強化が図られる。
- これにより、道内最大級の配合飼料コンビナートが建設され(140億円の建設投資、平成23年4月本格稼働)、雇用の拡大も図られ、十勝港を核とした地域活性が期待される。



■地域の声(R4:飼料生産企業)

- ・大水深岸壁の整備により、大型船で一括大量輸送が可能となることで輸送コストが削減され、企業の競争力強化に繋がったと認識しています。

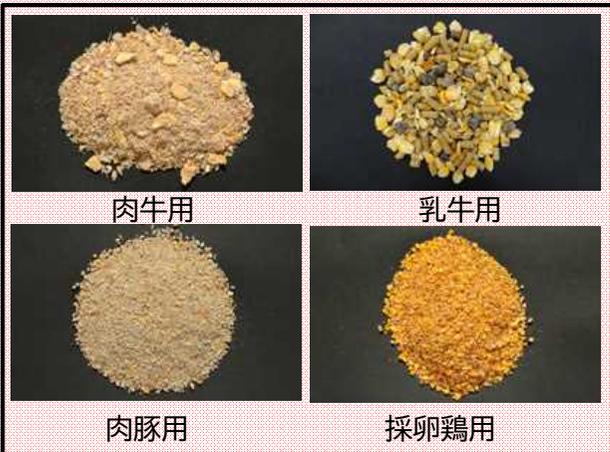


2. 事業の必要性等

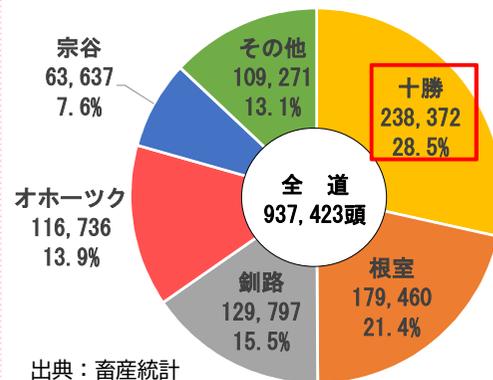
(2) 事業の整備効果(食を通じた地域振興及び食料安定供給)

- 十勝育ちの黒毛和牛は、高品質で栄養価が高い濃厚飼料等が肥育飼料として用いられ、飼育された上質な黒毛和牛は、十勝和牛として、北海道を代表するブランド牛となっている。
- 大水深岸壁が整備されることで、大型船による安価な飼料原料の調達が可能となり、十勝管内の飼育頭数を誇る乳用牛や肉用牛への配合飼料の安定供給を支えている。また、原料保管から飼料製造まで一貫した飼料コンビナートの形成により、生産の効率化が図られ、地域の産業競争力が強化されている。

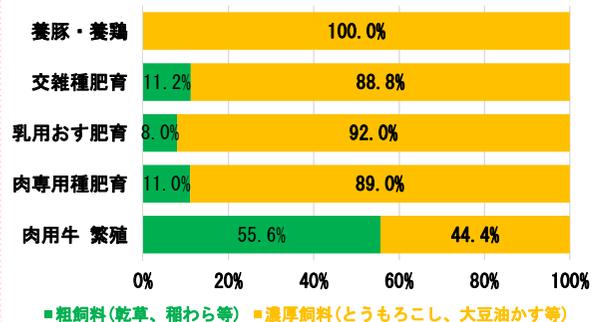
用途別畜産飼料



乳・肉用牛飼養頭数の振興局別割合(R2)(頭、%)



畜種別飼料供給割合(R2d)



資料：飼料をめぐる情勢(農林水産省)



■地域の声(R4:肉牛生産者)

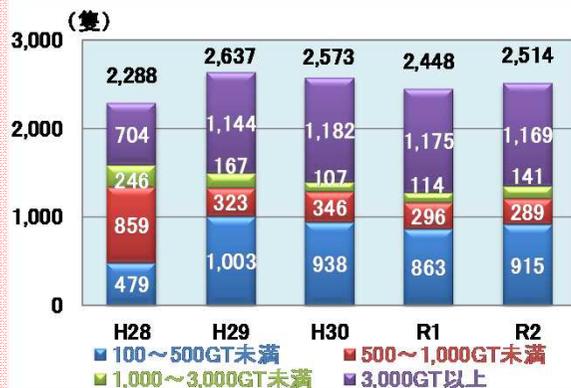
大水深岸壁の整備や穀物コンビナートの形成によって、安定的で価格競争力のある飼料原料を調達できるようになったお陰で、産業競争力が向上しております。その結果、十勝和牛等のブランド和牛は評判も良く高値で取引されております。

2. 事業の必要性等

(2) 事業の整備効果(安全・安定的な港湾の利用)

- 十勝港は、北海道西部や本州等から釧路・根室方面等の東北海道への航路上にあるため、沖合には多くの船舶が航行。
- 十勝港における防波堤の整備により、港内及び港口の静穏水域が確保されることで、沖合を航行する船舶の避泊が可能となり、海難の減少が期待される。
- 盛漁期にタグボートが港内の代替施設への移動を余儀なくされていたが、物揚場の整備により、タグボートの係留場所が確保されることで、移動コストの削減が期待される。

沖合航行船舶隻数(コンテナ、RORO、フェリー除く)



十勝港内における避泊水域の配置



● 避泊可能水域(港内静穏度向上水域)

避難船錨泊状況



避難船錨泊状況



タグボートと漁船の輻輳状況



■ 地域の声(R4: 港湾管理者)

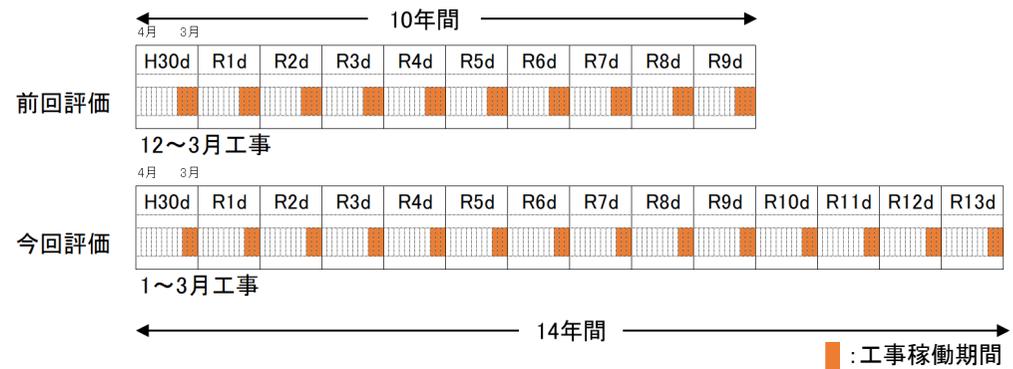
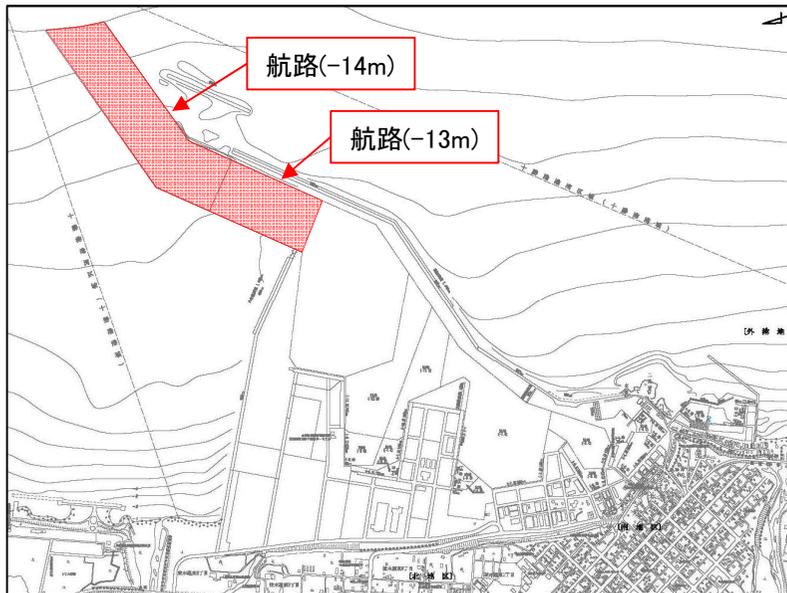
・防波堤整備により避泊水域を設けることができ、沖合を航行する船舶の受入が可能となることは、十勝港の機能・役割が一層増加すると認識しています。

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(事業期間の変更)

○航路(-13m)、航路(-14m):

漁業者調整により工事実施時期が縮小したことで、平成30年以降の浚渫施工能力が当初の想定 $\frac{3}{4}$ となり、事業期間4年延長



前回評価(H29)	今回評価(R4)	増減年数
平成5年~令和9年	平成5年~令和13年	+4年

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～事業全体～)

●条件 基準年:令和4年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	478.9
○管理運営費等	0.9
合計	479.8

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○陸上輸送コストの削減	478.3
○海上輸送コストの削減	14.4
○回避移動コストの削減	5.1
○海難の減少	146.4
○残存価値	2.0
合計	646.2

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{646.2}{479.8} = 1.3$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.3	±10%	1.3~1.4
事業費	1.3	±10%	1.3~1.4
事業期間	1.3	±10%	1.3~1.4

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 ～残事業～)

●条件 基準年:令和4年度 供用期間:50年

●総費用(現在価値化後) (億円)

費用内容	総費用
○建設費	31.3
○管理運営費等	0.7
合計	31.9

●総便益(現在価値化後) (億円)

便益内容	便益費
○陸上輸送コストの削減	39.2
○回避移動コストの削減	4.3
○海難の減少	15.6
○残存価値	0.6
合計	59.7

※端数処理のため、各項目の金額の和は、合計欄に記入している数字と必ずしも一致するとは限らない。

●算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{59.7}{31.9} = 1.9$
----------------	---

●感度分析

変動要因	基本ケース	変動ケース	費用便益比
需要	1.9	±10%	1.7~2.1
事業費	1.9	±10%	1.7~2.1
事業期間	1.9	±10%	1.8~1.9

2. 事業の必要性等

(3) 事業の投資効果(費用便益分析 前回評価との比較)

		H29再評価時点	R4再評価時点	備考 (前回評価からの主な変更点)
事業費(億円)		199	199	
整備予定期間		平成5年度～ 令和9年度	平成5年度～ 令和13年度	・漁業者調整による工事実施可能期間に伴う施工能力の低下による延長
便益の対象となる 需要予測	便益対象 貨物	443千トン/年 (令和10年度)	429千トン/年 (令和14年度)	・貨物需要予測の見直しによる減
	移動回数	108回/年 (令和10年度)	132回/年 (令和14年度)	・実績を踏まえた見直しによる増
	避泊回数	2隻 10.4回/年 (令和10年度)	2隻 10.4回/年 (令和14年度)	
便益(現在価値化後) (億円)		461	646	
B/C		1.5	1.3	

3. 事業進捗の見込み

○平成5年度から令和4年度までの整備状況

((事業費:億円、数量:m、㎡(泊地・用地のみ))

施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考	施設名		全体事業	実施済	残事業	進捗率 (%)	備考
航路(-13m)	事業費	34	23	11	67.6%	継続	泊地(-13m)	事業費	40	40	—	100.0%	完了
	数量	174,000	117,624	56,376				数量	473,200	473,200	—		
航路(-14m)	事業費	46	27	19	58.6%	継続	物揚場(-4m)	事業費	7	1	6	17.5%	継続
	数量	355,300	208,206	147,094				数量	120	21	99		
防波堤(島)	事業費	10	6	4	58.7%	継続	泊地(-4m)	事業費	1	0	1	0.0%	継続
	数量	30	18	12				数量	18,000	0	18,000		
岸壁(-13m)	事業費	50	50	—	100.0%	完了	道路(第4埠頭)	事業費	7	7	—	100.0%	完了
	数量	260	260	—				数量	938	938	—		
港湾施設用地	事業費	4	4	—	100.0%	完了							
	数量	17,700	17,700	—									

※「数量」は、現地着工した整備施設の事業費による換算数量とし参考値とする。

○事業の進捗の見込み

本事業にかかる関係機関との調整は整っています。

事業進捗率は79%となっており、事業が順調に進んだ場合には、令和13年度の完了を予定しています。

※事業進捗率は、事業費変更後の進捗率(令和4年10月時点)。

4. 地方公共団体等の意見

期成会等名称	会長等	主な構成メンバー	要望内容
十勝圏活性化 推進期成会	帯広市長	帯広市、広尾町等 十勝19市町村	船舶航路の安全確保のための水深 14m航路浚渫や島 防波堤の整備促進

●港灣管理者(広尾町)の意見

対応方針(原案)につきまして、特段の異議はありません。
十勝港は、背後地域の基幹産業である酪農業を支える流通拠点として重要な役割を担っています。
しかし、大型貨物船の安全な航行、荒天時に利用する避泊水域の確保について、その対策は喫緊の課題となっております。
事業の継続につきまして特段のご配慮をお願い申し上げます。

5. 対応方針(案)

- ・十勝港内港地区国際物流ターミナル整備事業は、背後圏域における地域経済の活性化のみならず、北海道における畜産業にも寄与する事業と考えられます。
- ・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。
- ・引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費及び事業期間の管理に努めていきます。